

令和6年8月19日

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式原案

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保 育
事業所名	レイモンド大萱こども園
代表者氏名（管理者）	園 長 中島 悦子
法人名	社会福祉法人 檸檬会
定員（利用人数）	66名（76名）
施設・事業所所在地	滋賀県大津市大萱4丁目10番50号
T E L	077-572-8245
F A X	077-572-9135
電子メール	ogaya@lemonkai.or.jp

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	令和6年7月19日と7月30日

○ 総合評価

社会福祉法人「檸檬会」は、保育分野に限れば関東圏から沖縄まで60を超える保育園・こども園・小規模保育所を運営し、法人ビジョン「カラフルな○△□が、凹凸ある世界で躍動する、ソーシャルインクルージョンの実現」を掲げ、奈良県三郷町にあった学校法人跡地の一部を活用して多様な個性が輝くボーダーレスコミュニティ「レイモンドヴィレッジ」を開村し、障がいを持つ人達も健常者も性別・年代・国籍などに関係なく自分らしく生きる権利が守られ、誰もが受容される社会、ソーシャルインクルージョンを実現する為の活動が始まりました。

滋賀県でも保育園4カ所、こども園6カ所、小規模保育所6カ所、プリスクール1カ所、児童クラブ4カ所を運営しています。

檸檬会全体の基本理念は、短期的な結果を求めるのではなく、全ての子どもたちに、生涯消えることのない『生きる力』である「3つの心」を育てることをめざしています。

① 「人・命を愛する心」

～人・命を慈しむ、思いやりの心を育むこと～

② 「自然と共に生きる心」

～環境にしなやかに対応し、自然とともに生きる心を育むこと～

③ 「想像（創造）する心」

～想像し創造する活動をとおして、未来を切り拓く力を育むこと～

さらに、当園の保育理念・方針は次の6つを掲げています

- ① 家庭的な雰囲気大切に、一人ひとりの子どもに寄り添ってきめ細やかな保育を行います
- ② 子どもが主体的に生活を進められる環境づくりや活動を行います
- ③ 子どもたちが様々な実体験・遊びを通して成長できるような環境づくりを行います
- ④ 異年齢クラスによる保育を取り入れ、思いやりと協調性を養います
- ⑤ 自然に関する原体験を通して、自然・命の偉大さを感じ自然と共生する心を養います
- ⑥ 自分から挨拶が出来る力・礼儀作法・他者を思いやって行動できる利他の心を育みます

当園は平成31年4月1日に開園しましたが、多くの反対署名が集まる中で開園した保育園でした。敷地が狭隘な中で満足と言える広さの園庭ではありませんが、2階に設定された保育室では、工夫しながらコーナー保育等の環境を整えています。またハザードマップから見ると50cmの浸水ありとの状況下では子どもたちの安全面でも考慮しています。

3,4,5歳児はワンフロアの保育室となっていることから、異年齢の自然な交流が出来ていると

いうメリットもあり、5年4月1日にはこども園として活動範囲を広げてきています。

施設長は3年前の着任で、本部の新しい法人理念とその活動に従って、こども園の活動にこの本質を加えながら地域との関係を良くしようと懸命に努力し、保護者アンケートでも保護者からも信頼を受けていることが伺えます。

今回の保護者アンケートの結果で保護者や児童が満足している項目を%で並べると以下の通りとなります。(回収率は82%でした。下記回答は満足している方の%です)

・ 園の理念・基本方針を知っていますか	95%
・ 個人情報の取り扱い	97%
・ お子さんは当園で大切にされていますか	97%
・ 感染症の予防対策や発生時の対応	89%
・ 清潔で、子どもが落ち着いて過ごせる環境ですか	95%
・ 保育中の発熱や体調不良・ケガ等への対応と保護者への連絡	92%
・ お子さんは喜んで当園に行きますか	87%
・ 総合満足度は	90%

コロナ禍の影響からようやく5類に移行され活発に活動しようとしたが、関東ではコロナの新種菌が発生し8月中旬にはピークになる予報など、完全フリー活動が許されないところにありますが、保護者と今まで以上にコミュニケーションを高める方法を模索しながら、地域の皆さんとも楽しく交流できるアイデア、工夫を重ねて取り組める方法を考えてみる等、子どもたちの笑顔が増えることを目指して、施設長をトップに全職員が一致して懸命に努力している施設であります。

○ 特に評価の高い点

1. 総合的な人事管理と就労環境が整備されている

人事管理については、本部人事部による集中、一元管理が徹底しています。勤怠管理はもちろんのこと、採用、配置、異動、昇進、昇給等は明確な基準のもと厳正に運営されています。労働条件や福利厚生については、UA ゼンセン檸檬会ユニオンとの労使協定で定められています。組合員の範囲は施設長以下、パート勤務の職員も含めた全員であり、組合は施設ごとに支部を構成して施設長が支部長となっています。この事は裏返せば、人事管理を現場に委ねず明確な基準に基づいた運営がなされている証と言えます。一例をあげれば、有給休暇は一年で最低5日は取得する決まりとなっており、未取得者には期日が近づくと警告アラートが通知されるシステムとなっています。昨年8月に就任した経験年数28年の保育教諭は面談で「前の職場では休みは取り辛く、残業は日常的で全てサービス残業、この業界ではそれが当たり前のことと思っていたので、ここに来て休みは多いし、突発的な残業も含めて全て支給され

る！驚くとともに大変喜んでいました。」と話していました。

ワークライフバランスを見据えた就労環境の整備にも力を入れています。キャリアアップに向けた制度も万全です。産休などの休業制度も充実しており、働きやすい職場、休みやすい職場へ向けた福利厚生の実施は労使の弛まぬ努力の成果と申せましょう。

2. 食事を楽しみ食育に貢献している

基本的にまず子どもの自主性は最大限に尊重されていることがベースになっていることを強く感じました。献立メニューは本部で統一したのですが、経験豊富な調理師を中心に3名のスタッフが食事の場へ出向き注意深く観察し、残食などを調べ、作る量や味付けを工夫して子ども達に喜んでもらえる様努めています。

園庭で大きくなった夏野菜を収穫し自分達で育てて取れた喜びは大きく、特にスイカなどは「赤ちゃんみたいに可愛いね」と抱えて大喜び、「これどうして食べるの」「お料理してちょうだい」と給食室に持ってきます。

子ども達が、より幅広い文化に触れる事ができるように今年度から「世界のごはん」を取り入れ、保護者には「食育だより」を毎月配布し、子ども達の食に関する豊かな経験が出来るよう配慮しています。今回のアンケート調査結果では、「給食や食事に関する取組」に対して98%が満足しているとの回答が出されています。（合計62名が回答され、その中で1名のみわからないとの回答でした）

3. 行き届いた健康管理と安全・安心への環境作り

開園直後からコロナ禍に見舞われ、何よりも園児の安全と安心を最優先に取り組んできた当園にとって、保育の最重要施策は「子どもの健康管理と安全・安心の環境作り」といっても過言ではありません。ベテランの看護師が率先してマニュアルに沿った活動を行っています。

まず、来園する一人ひとりの子どもの様子を注意深く観察します。しぐさや動きでいつもと少し違うと感じた場合は検温等を行い、もし異常が見つかった場合は担任保育士と共に保護者に直ちに連絡してアドバイスを行います。よくあるケガについても、その内容を分析し子ども本人にもわかりやすく説明し安心させ、保育士や家族に直接説明しています。今春から手足口病を二例、早期発見して感染拡大を防ぐことができました。

若くて経験の浅い保育士が多い当園にとっては貴重な戦力であり、職員からの信頼の厚さは当然として、適切な対応は子ども達や保護者の方々からも信頼の声が届いています。

○ 改善を求められる点

1.地域に根差し、地域から信頼される施設としての一層の取り組みについて6年前の開園にあたっては、地域住民の反対運動が起こり300名の反対署名が集まりました。そして、開園直後からのコロナ禍です。職員や園児の感染による休園にも追い込まれました。そのような逆境の中で地域住民どころか保護者の方々も参加できない、週末でなく規模や内容を縮小した平日のイベント開催を強いられました。地域に向けた取り組みは漸く2年前からの取り組みとなります。地域の人々と子ども達の交流の場としての「Ogaya Citron Cafe」の月に一度の開催です。地域の未就園児を対象とした子育て支援事業「nicotto れもん」も月に一度の開催で好評を得ており、年度初めは3、4名の参加が、年度末には10名程に増えて次年度の入園に繋がっています。

本年7月末の土曜日に開催した「シトロン夏まつり」は、上記の地域支援事業と園内行事を合体させて実施し、夏野菜カレーやレモンゼリーなどの提供、プロのジャグリングショーやうちわ作り、地域の方々の出店も好評を得ました。参加者は300名近くに上り、園関係以外の参加者も100名近くと過去にない盛大なイベントとなり、大きく一步を踏み出せました。

また、5歳児クラスの園児が近くの老人ホームを訪問して一緒にお月見のちぎり絵を作成する活動も実現いたしました。

まだまだ、端緒についたばかりの段階ですが、こうした活動が積み重ねられて、やがては地域自治会との交流など地域から支持され信頼される取り組みが着実に進められるものと期待します。

第三者評価結果に対する事業者のコメント

開園から6年目を迎えるにあたり、法人理念を基盤としながら「当園らしい保育」とは何かを模索しているところです。この度の評価内容を受け、今一度、保育内容の現在地を確認し、先ずは中期的な目標を設定する事から仕切り直してまいります。

地域との関わりの大切さは、地域支援事業にご参加くださる皆様の笑顔から感じておりますが、現状に満足せず今後も利用者様と地域に常に探求心を持って関わることで、実現可能な事を探り実践し、それをアップデートしながら持続する術をチームで考え、進めてまいります。また、チームのメンバーである保育者一人ひとりを園の財産と捉え、働き続けたいと思える職場環境づくりも継続して努めます。

当園を「大切な場所」と感じる事ができ、またその想いを誰かに伝えたいくなるような園運営を、関わる人みんなで作って進めていきたいと改めて感じております。